

隨泉寺寺報

平成18年(2006年) 7月号 第431号

TEL 082-892-0217 <http://www.ttec.co.jp/~zuisenji/>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

安居会法座

講師 正光寺副住職 和泉 裕生師

講題 「身近な浄土真宗」

『散りはてて 花のかげなき木(こ)のもとに
たつことやすき 夏衣(なつごろも)かな』(新古) 慈鎮和尚
【通釈】散り果てて、桜の花の影もない木の下

立ち去ることも気安いなあ、薄い夏衣に着替えた身には。

クールビズとやらで、今年もノーネクタイで夏を涼しくという運動が、小泉内閣のかけ声で行われています。考えてみると随分前から、生活の智慧というか、習慣で衣替えを行ってきました。今更という気もしますが、衣替えというのは日本独特の素晴らしい風習でしょう。薄着になると体を動かすのが容易になった気がします。脳梗塞で半身が不自由な母が、冬より夏のほうが血行もいいのか、体が動かし易いといっていました。服だけでなく、見栄とか格好とか、プライドとかそんなものを脱ぎ捨てる事が出来れば楽に生きられるのでしょうか・・・。

7月の法座予定

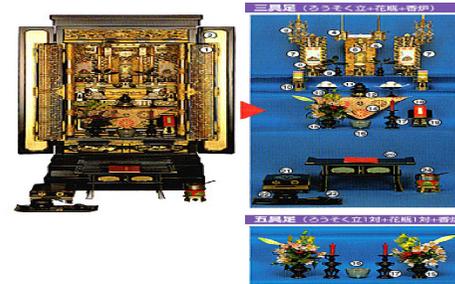
7月 9日.....掃除 鴨の巣
7月14日昼席午後1時より.....安居会法座
7月14日夜席午後7時半より.....出張法座 鴨の巣
7月15日朝席午前10時より.....門信徒の集い おとき
7月15日昼席午後1時より.....安居会法座
7月29日午後5時より.....ビアガーデン
8月 2日午後6時より.....門信徒会本部役員会

☆第1回お父さんの集い

6月15日第1回のお父さんの集いを開催しました。この頃お寺にお参りしてくださる人の中に、男の人の姿がめっきり少なくなっていました。6月の第3日曜日は父の日です。そこでお父さんにお寺に参ってもらう日を作りました。どれだけお父さんが参ってくださるか心配していましたが、37名の方が参加してくださいました。大成功だったと思っています。何事も一歩踏み出すまでが勇気がいります。これからもだまされたいとお参り下さい。人生はやり直す事は出来ません。しかし、見直す事は出来ます。自分の人生の意味を見直すことが出来たら、これからは明るくなります。



☆門信徒の集い 7月15日(木) 午前10時～



毎年行っていた65歳以上の集いを『門信徒の集い』と名称変更をして新しく行います。今回の御講師は住職の実家の甥です。今回はじめてお話に出講してくれます。身近な浄土真宗のお話をしてくれる予定です。今回はお仏壇のお荘厳や作法について解説をしていただきます。お仏壇店から実際のお仏壇を持って来ていただき、わかり易いお話をしてくださる事と思います。日頃の疑問や不審なことがあり

ましたらどうぞ質問をしてやってください。あらかじめ質問をしておいてくださると、話しやすいと思います。どうぞなんでも聞いてください。

☆ビアガーデン7月29日午後5時より(雨天決行)

今年も恒例のビアガーデンを開きます。去年は途中から雨が降り出し、ジョッキ片手に右往左往しました。今年は一週間遅らせて開催します。暑さを飲みこして夏を乗り切りましょう。誘い合わせてご参加下さい。



☆研修旅行 9月4日(月)

要望のたくさんあった研修旅行を行います。2～3年前から行きたいと思っていた福山沼隈町山南の光照寺にいきます。光照寺にはめずらしい御絵伝があります。県の文化財に指定されていますから本物は見られないかもしれませんが、デブリカは見せてもらえると思います。楽しみにしておいて下さい。募集は40名の予定ですから早めに申し込みください。

☆御礼

永代経懇志 金 拾萬円 藤井 義男殿 故 藤井 照子様 特別永代経志として
門信徒会へ 金 一封 藤井 義男殿 故 藤井 照子様 香典返しにかえて

「南無阿蘇陀仏」

み親のおいのちの絞り汁

思い出されるのは、(※日航機ジャンボ機墜落事故で亡くなった)大阪商船三井船舶神戸支店長河口さんのご遺書です。絶望の機内で「どうか仲よくがんばって、ママをたすけてください」と、お子さま方に、「幸せな人生だった」と、奥さまに書き遺されたあのことばは、河口さんの全おいのちの絞り汁といえましょう。そして、このおことばが、言いようのない悲しみの中の奥さまや、お子さま方を支え続け、生きる指針となってくださったにちがいありません。



そして、このことを通じ、河口さんは、大悲のみ親のおいのちの絞り汁が「南無阿蘇陀仏」であり、私へのご廻向のみ名であることを、教えてくださっている気がするのです。

そして、全ての方々が「至心二廻向シ」とお読みになってきた『大無量寿経』「願成就の文」の「至心廻向」を、「至心二廻向シタマヘリ」とお読みになり、「至心」も「廻向」も、全て、み親から私への「至心」であり、「廻向」であるといただかれた、親鸞聖人を仰がせ、ほんとうの「お盆」の心を教えてくださっている気がしてくるのです。

母の死

母の死から49日がたとうとしている。

住職から原稿の依頼を受け、母の事を色々と考えてみた。

子供の頃 私は父親っ子だった。ずばり嫌いだった。とにかく母は私には厳しかった。妹と喧嘩した時も悪くなくても必ず、`あなたがお姉ちゃんだから我慢しなさい`と言われ、外に出された事もあったし、

茶碗は音をたてて洗うな、洗濯物は、正座してたたため等、数をあげればきりが無い。

私は愛されていないと思ったが、小学校の時骨折して通院してた時、母が 私の手を引いてくれた時はものすごく嬉しかった。私は中学・高校時代に陸上をしていた。高校の卒業式の時、母が監督に涙を流しながら挨拶をした時は正直びっくりした。そんな母に対し私は結婚する迄、反抗を続けてたが、身に余るぐらいの結婚式と支度をしてくれた。母が私を認めてくれたのは、結婚して初めて引越しをした時に、不安がってた私を《智津子はどこに行っても大丈夫》と力



付けてくれてからだ。作った料理もおいしいと言ってくれ孫を溺愛し同じ母親同志となった。今考えれば厳しかったのは その為だったのではないだろうか。母のおかげで私は 家族や人に恵まれ幸せに生きている。やはり母は偉大だ。全く恩着せがましい事を言わなかった。そして最後の日は、母らしく孫に卒業式に出させたい一心だったのか皆に迷惑かけずに旅立って行った。その様な母に私はなれる

だろうか、私が旅立って行った時にやっぱり母はすごかったと思われる様な人になりたい。

合掌

平成18年5月

釋安養 井上 明江 18年 3月16日往生 73歳

井上明江 長女 金井智津子

鯨法会 金子みすゞ



鯨法会は春のくれ、海にとびうおとれるころ。

はまのお寺が鳴るかねが、ゆれて水面(みのも)をわたるとき、村のりょうしがはおり着て、はまのお寺へいそぐとき、おきでくじらの子がひとり、その鳴るかねをききながら、死んだ父さま、母さまを、こいし、こいしとないてます。海のおもてを、かねの音は、海のどこまで、ひびくやら。